序　　文

本学創立以来，研究活動一覧が昭和53年に第１輯が発行され，今年で18回になる。これらの記録は各部局，講座，教室等の業績を公表することにより，本学の研究活動状況を示すとともに，点検・評価にも密接に関連し，貴重な資料が積み重ねられて来た。

近年基礎科学振興の重要性が指摘されながらも，施設，設備の老巧化が進み，概算要求もゼロ・シーリングに抑制される時期もあった。しかし，最近になって予算の増額とともに新しいプロジェクトも設定され，予算配分も重点化の方向にシフトしつつある。

たとえば，新プログラム方式による「創成的基礎研究」は平成６年度より12テーマになり，新しくスタートした２テーマのうち生物系では「細胞内情報伝達機構の研究」が設けられた。また，多くの研究者が申請する科学研究費も平成６年度の824億円から今年度は920億円（12.1％増）となり，一応の目標とされる1,000億円ラインも次年度には達成されると思われる。さらに本年度から新たに設けられた構想として，センター・オブ・エクセレンス（ＣＯＥ）の形成（91億８千万円）があげられる。その一つは中核的研究機関支援プログラムで，大学共同利用機関（15機関），全国共同利用型大学附属研究所（７大学17研究所）及び研究施設（13大学22施設）を対象に経費の充実を意図している。他は中核的研究拠点形成プログラムで，特定研究分野の育成を目的とし，創成的基礎研究，特別推進研究，重点領域研究等を行っている研究組織の中から選定される。

本学関係では平成７年度概算要求として，待望の遺伝子実験施設が認められ，ヒト遺伝子解析，遺伝子診断，治療の基盤が今後積極的に構築されるものと期待したい。また和漢薬研究所の改組も検討されているが，全国共同利用への方向性を盛り込みつつ，将来的にはＣＯＥに参画可能な構想が望まれる。

近年基礎科学は予想を越えた急速な進歩を遂げつつあり，その中核である大学における研究の活性化と国際的競争力の強化が切望されている。これらの情況を踏まえつつ本学の研究成果が一層発展することを期待したい。

学　長　佐々木　　博